

INAZAWA RENEWABLE ENERGY INTRODUCTION PLAN



©Inazawa City INAPPY

稲沢市地域再エネ導入戦略 概要版
令和5年3月

稲沢市経済環境部環境保全課（環境センター内）
〒492-8391 稲沢市中野川端町74番地
TEL : 0587-36-3710
FAX : 0587-36-3709
E-mail : kankyo-hozen@city.inazawa.aichi.jp

2023

稲沢市地域再エネ導入戦略 概要版

2050



令和5年3月

稲沢市

稲沢市では、2021年9月2日に2050年までに市内から排出される温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「稲沢市ゼロカーボンシティ宣言」をしました。本戦略はゼロカーボンシティの実現に向けて、本市の将来像と取組の方向性を示したものです。



稲沢市ゼロカーボンシティ宣言

現在、世界規模で問題となっている気温の上昇、局地的豪雨、超大型台風の発生などの気候変動は、二酸化炭素を始めとする温室効果ガスの増加が原因であり、これは社会経済活動等により排出されたものであります。これらの活動は、健康で文化的な生活の確保や福祉に貢献するためのものですが、その目的とは裏腹に、人類を危機に直面させることとなってしまいました。

これからの生活は、これまでの生活の豊かさを維持しつつ、温室効果ガスの排出を大きく抑制することが求められています。そのためには、行政はもちろん、事業者や市民の皆様一人ひとりが、製品の買換えやライフスタイルの選択など、賢い国民運動「COOL CHOICE」を実践していかなければなりません。

本市におきましては、次の世代の子どもたちに、安心して暮らすことができる環境を残し、グリーン社会を実現するために、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取組を進めていくことを宣言いたします。

令和3年9月2日

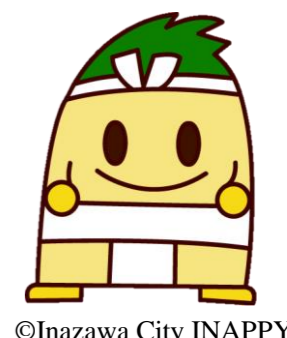
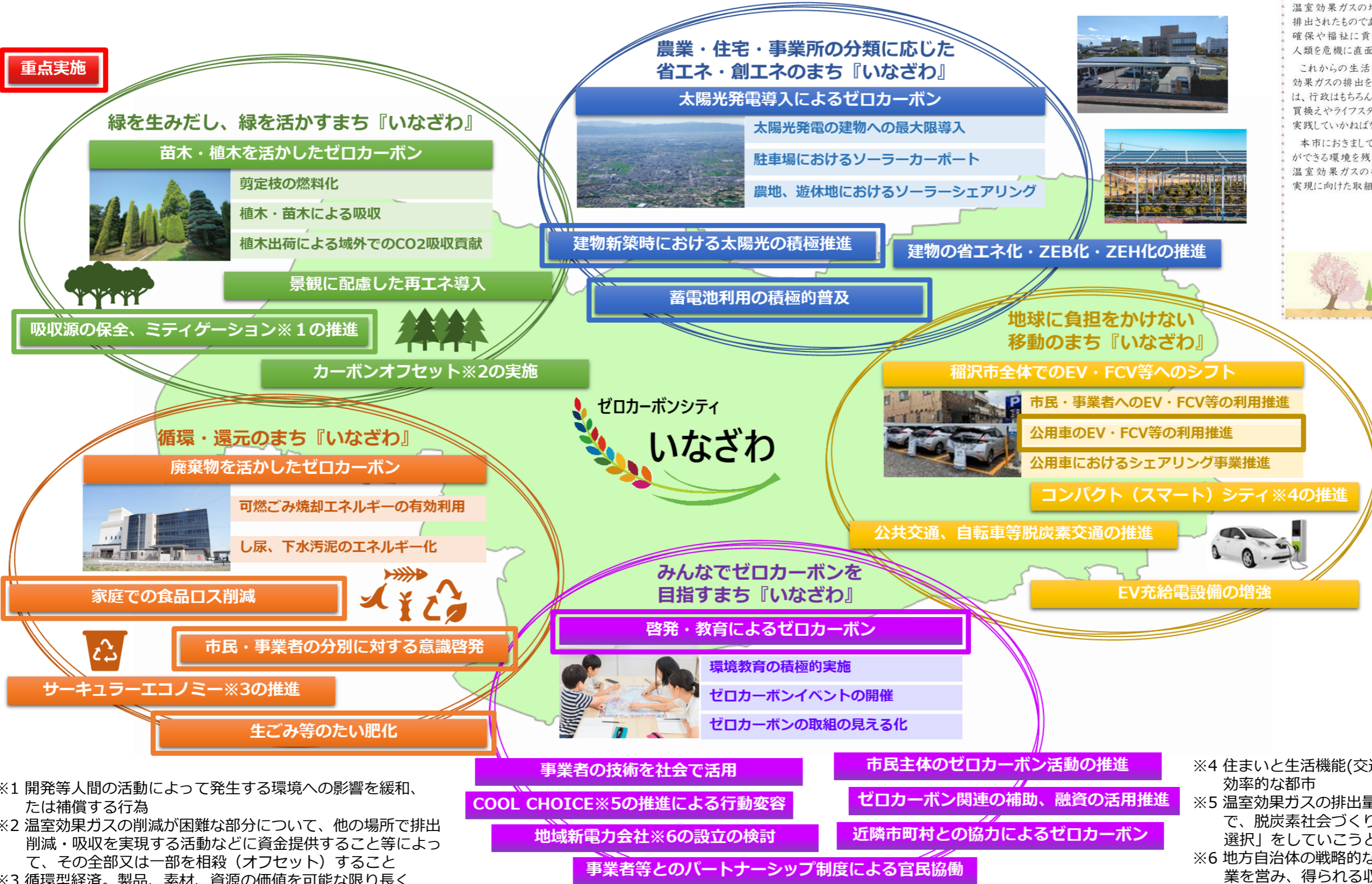
稲沢市長 加藤 鏡司郎



将来像

地域に根差し、地域を活かすゼロカーボンシティいなざわ

重点実施



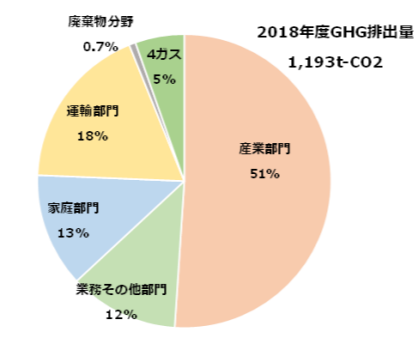
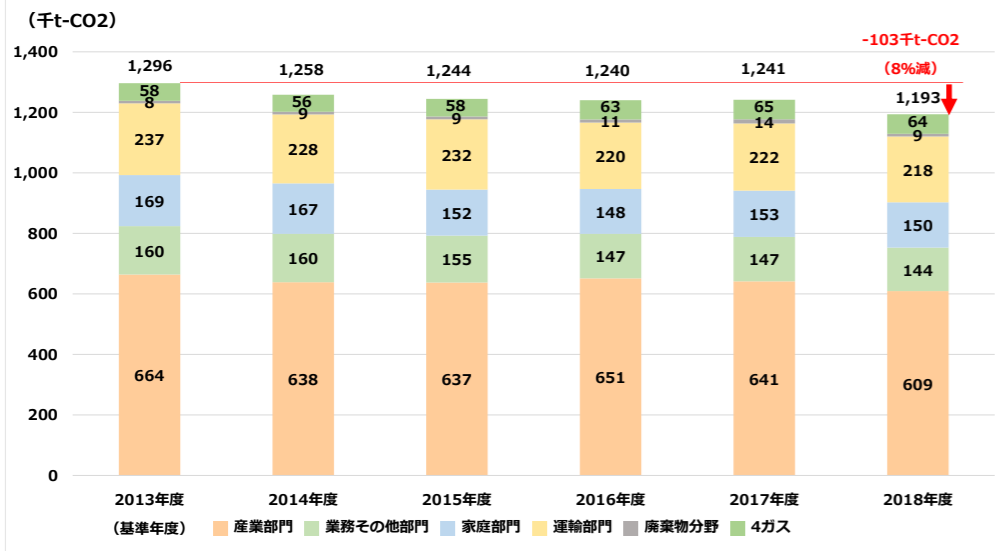
©Inazawa City INAPPY

※1 開発等人間の活動によって発生する環境への影響を緩和、または補償する行為
 ※2 温室効果ガスの削減が困難な部分について、他の場所で排出削減・吸収を実現する活動などに資金提供すること等によって、その全部又は一部を相殺（オフセット）すること
 ※3 循環型経済。製品、素材、資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小限化する経済システム

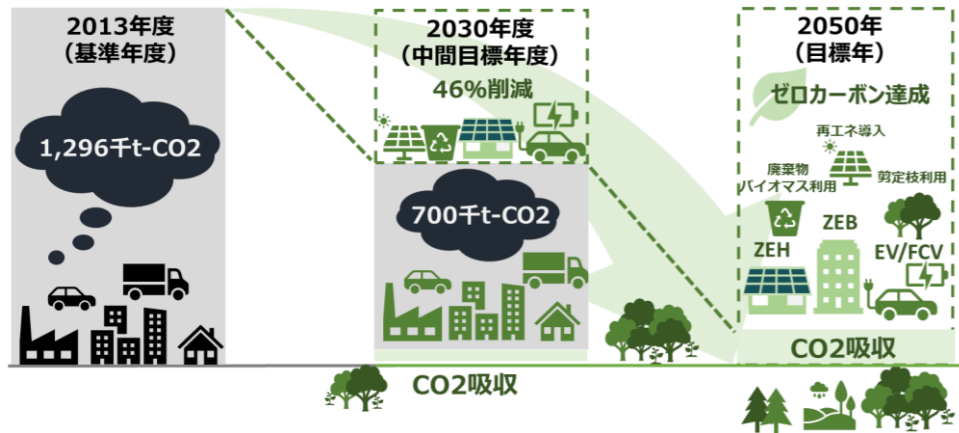
※4 住まいと生活機能(交通、商業施設等)が近接している効率的な都市
 ※5 温室効果ガスの排出量削減のために、日々の生活の中で、脱炭素社会づくりに貢献するあらゆる「賢い選択」をしていこうという取組
 ※6 地方自治体の戦略的な参画・関与の下で小売電気事業を営み、得られる収益等を活用して地域の課題解決に取り組む事業者

稲沢市の温室効果ガスの現状とゼロカーボンに向けた削減目標

稲沢市における2018年度現在の温室効果ガス排出量は1,193千t-CO2であり、基準年度である2013年度から約8%削減しています。また、稲沢市では産業部門からの排出が約半分を占めています。



稲沢市における温室効果ガス削減目標は、国の削減目標に従い、2030年度までに基準年度（2013年度）比で46%削減（700千t-CO2）、2050年までにゼロカーボンを達成するという野心的なものです。



(2) 再生可能エネルギーの導入

稲沢市にある再生可能エネルギー導入ポテンシャルの利活用により、将来のエネルギー需要を満たすことでゼロカーボンの達成を目指します。

太陽光発電

【導入ポテンシャル：716MW（1,004,270MWh/年）】



建物の屋根への導入

利活用困難な土地への導入

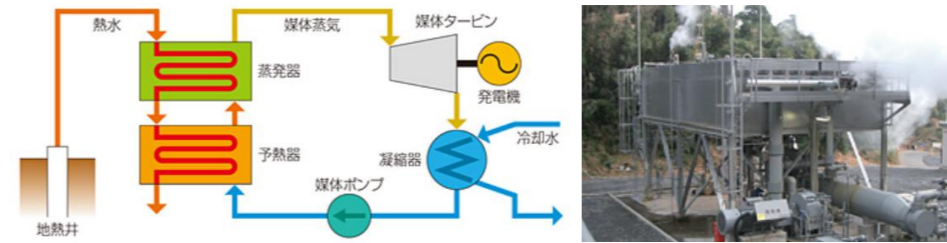
農地・遊休地への導入

駐車場への導入※7

※7 出典：「ソーラーカーポートの導入について」（環境省）

地熱(低温バイナリー)発電

【導入ポテンシャル：0.045MW（278MWh/年）】

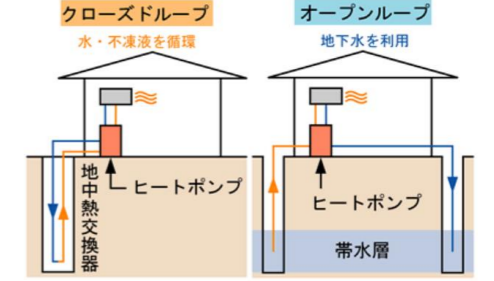


地熱バイナリー発電※8

※8 出典：資源エネルギー庁HP

地中熱利用

【導入ポテンシャル：7,025TJ/年】



地中熱の空調利用※9

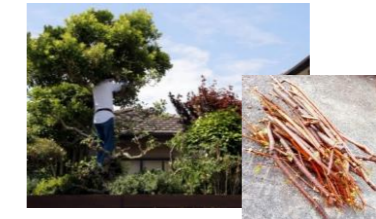
※9 出典：地中熱利用促進協会HP

バイオマス発電

【廃棄物バイオマス導入ポテンシャル：2.15MW（4,240MWh/年）、木質バイオマス導入ポテンシャル：15TJ/年】



稲沢市環境センターの発電電力の有効活用



植木の剪定枝等の活用



し尿、下水汚泥等の活用※10

※10 出典：富山県HP

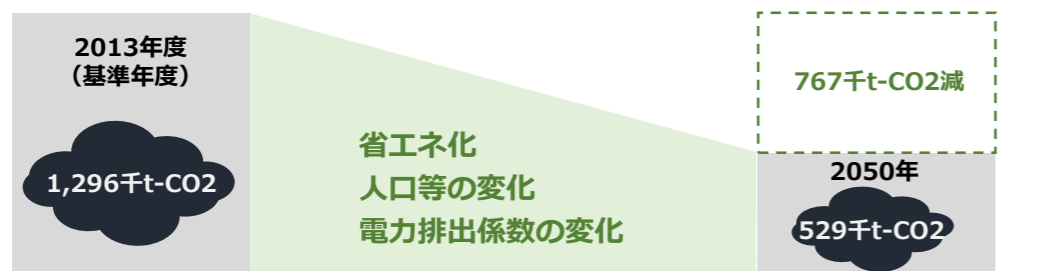
ゼロカーボン達成に向けた取組

(1) 省エネルギー化

稲沢市は市民や事業者と共に省エネ化を進めることにより温室効果ガスの削減を目指します。

| 部門 | 取組 |
|-------|---|
| 産業 | 省エネ性能の高い設備・機器等の導入推進、業種間連携した省エネ取組の支援 等 |
| 業務その他 | 建築物の省エネ化、徹底的なエネルギー管理の実施、省エネ行動の徹底 等 |
| 家庭 | 住宅建築物の省エネ化、省エネ性能の高い設備・機器等の導入推進、省エネ行動の徹底 等 |
| 運輸 | 次世代自動車の普及、公共交通機関の利用推進 等 |
| 廃棄物 | 廃棄物焼却量の削減 |
| その他 | 環境保全型農業の推進 等 |

省エネ化の取組により、稲沢市の2050年の温室効果ガス排出量は529千t-CO2にまで削減すると考えられます。



(3) みんなで進めていくゼロカーボン達成に向けた取組

普段の生活の中でご家庭や職場ですぐにでもできるゼロカーボンに向けた取組を積極的に推進します。

- 剪定枝を分別・収集し、資源として利用できるようにする
- 身近な緑の保全・拡大に主体的に取り組む
- 家庭エコ診断（環境省）や省エネルギー診断等の活用で家庭、事業所のエネルギー利用量（CO2排出量）の見える化をする
- 生ごみ等をたい肥化し、再生利用する
- 3010運動等に協力し、食品ロスを削減させる
- 廃棄物の4R（リフューズ（Refuse）、リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））を心がける
- 量り売り等廃棄物が発生しないライフスタイル・経済活動への転換
- 公共交通機関や自転車等環境負荷の少ない交通を積極的に利用する
- パークアンドライド、サイクルアンドライドを心がけた移動をする
- ゼロカーボンや稲沢市の取組に関心を持ち、家族友人と情報を共有する

2023年

2030年

2050年

緑を生みだし、緑を活かす
まち『いなざわ』

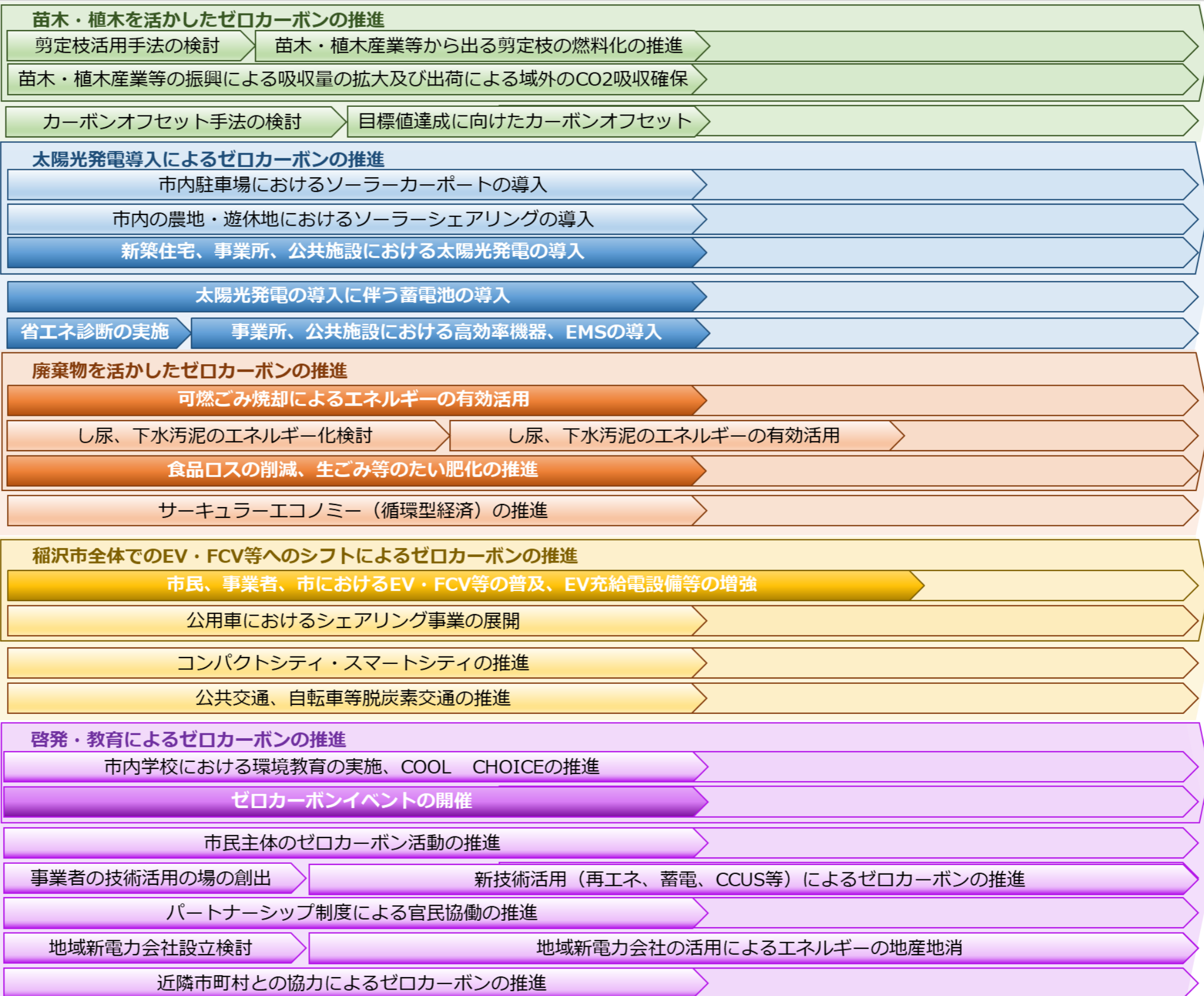
農業・住宅・事業所の分類
に応じた省エネ・創エネの
まち『いなざわ』

循環・還元のまち
『いなざわ』

地球に負担をかけない移動
のまち『いなざわ』

みんなでゼロカーボンを目
指すまち『いなざわ』

稲沢市地域再エネ導入戦略策定



稲沢市ゼロカーボンシティの達成

※白字は重点的に推進していく取組を表しています。